

和歌山県海草郡紀美野町

地区×学生による知られざる歴史掘り起こしと観光・文化・交流情報発信



【地域の基礎データ】

人口：8,967人（平成30年9月末現在）

面積：128.34平方キロメートル

高齢化率：41.4%（平成27年1月1日現在）

産業：棕櫚製品製造業、農業 など

観光資源：生石高原、みさと天文台、野上八幡宮 など

【活動の基本情報】

参加学生数：22名（1回生：6名、2回生：6名、3回生：6名、4回生：4名）

活動期間：平成30年4月～

担当教員：佐野楓

1. 活動実施の経緯

本プロジェクトは、和歌山大学観光学部が数年前から取り組んできている地域インターンシップの一つである。昨年度まで4年間に渡り、紀美野町の上神野地区で活動してきたこのLIPは、本年度は地域を新たに紀美野町の小川地区で活動を進めてきた。紀美野町の小川地区は6つの大字が集まった地区であり、江戸時代の紀州領と高野山領の協会の集落で掘り起こしたい歴史が数多く眠っている。現在移住者ものづくりの会「クラフトバレイ」さんが、観光案内マップ「小川フットパスマップ」を準備中で、それを機に「地元目線」と「外の目線」の良いところ取りで、活性化に繋がられることは、本プロジェクトの最大の目的である。

2. 活動の内容

活動内容としては、小川の郷づくり会の方々が開くイベントのお手伝いや、生石山のふもとにある直売所のお手伝いであった。

参加した大きなイベントは2つあった。1つ目は秋祭りでの焼き鳥の販売である。何か学生考案で催し物をとという依頼のもと、小川地区の特産品である山椒を使った焼き鳥を販売した。地域おこし協力隊の方、役場の方、小川の郷づくり会の代表の方に和歌山大学に足を運んでいただき、ミーティングや試食を行った上で秋祭り当日を迎えた。使った山椒は、小川の郷づくり会の会員の方が、育てた山椒をフレーク状に加工したものである。大変美味しいと地域の方々に好評であった。

2つ目は、冬まつりである。冬まつりも秋祭り同様準備段階からお手伝いをしてきた。小川小学校にある35メートルと25メートルのメタセコイヤのイルミネーション飾りつけに加え、グラウンドにたくさんの竹灯籠を並べた。また当日のお餅まきに向けて前日に餅つきに参加した学生もいた。当日の内容としては、1回生はカラオケ大会の司会を担当し、2・3回生は秋祭りと同じく焼き鳥の販売に加え、ぜんざいの販売などのお手伝いをした。一緒に活動している小川の郷づくり会の会員さん以外の地域の方々と会う貴重な機会であったが、そこで積極的に話をする余裕がなかったことが課題として挙げられた。また冬まつりに参加した多くの学生が風の森という民泊施設に泊まった。

最後に、1月末に学生から役場の方に依頼をし、冬まつりでの課題に取り組むべく、まち歩きを実施した。まずは地域について知らなければどのようにLIPとして学生が活動をするべきかわからないという意見が学生内で多くあったことから、地域のお宅を二軒訪問させて頂き、小川地区の歴史についてお話を伺った。

3. 活動を通じて

今回の活動では、自治体が抱える「地区に眠っている歴史の掘り起こし」という課題に触れ、生石高原の最高の魅力を探ることができたと思う。また、地域の方々が話し合いをして、足並みを揃えて活動していくのは、本プロジェクトに参加した学生たちが学ぶことができた。

4. 成果物など



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6

写真1：秋祭りでの山椒やきとり販売／写真2：冬まつりにて地域の方にご挨拶@小川小学校／写真3：古民家風の森にて七夕の飾り付け／写真4：冬まつりにて集合写真@小川小学校／写真5：小川小学校での冬まつりの様子／写真6：地域の方とフットパスマップについて意見交換